

総会議決行使書に記載いただいたご意見は下記の通りでした。

■渡邊昭雄会員

今後とも活発な活動を続けてもらうようお願い致します。

■大谷幸矢会員

・コロナ禍ですが、3密対策をしっかりとって新年乗船会を開催してほしい。
・岩手県宮古市の陸中海岸浄土ヶ浜遊覧船が来年1月11日をもって58年の歴史に幕を閉じます。震災後ずっと本船(第16陸中丸)を追い続けていた私にとって、とてもさみしいことになってしまいました。関西方面からは行きにくい場所ですが、是非会員諸賢に足を運んでいただきたいです。その節は大谷まで声をかけていただければコーディネートさせていただきます。

■宮島英明会員

業界見識者の講演を直に聞けるような状況になればと、新型コロナウイルスの終息を願います。

■白井 譲会員

・フォーラム、勉強会及び乗船会について内容及び費用で参加希望も、関東に住居している者には、実際に参加することが厳しいです。1部でも関東地域開催の企画ができないでしょうか。
・出版物として「日本の旅客船Ⅰ」「日本の旅客船Ⅱ」は寄贈を除いて各何冊販売できたのでしょうか。事務局長の取材レポートで写真付きの内容をメール配布していますので、新たに本を購入する割合が知りたいと思います。

事務局回答：いずれも200冊印刷し、現時点で「日本の旅客船Ⅰ」は87冊、「日本の旅客船Ⅱ」は104冊を販売しました。創立10周年基金を使い、全国の49都道府県図書館に寄贈を予定しています。

■鳥海憲彦会員

・種々イベントの会場が関西地区の場合が多いですが、可能であれば京浜地区での実施をご検討いただきたい。
・昨年造船会社をリタイアし、送信していただく諸情報が楽しみです。

■保科真一会員

・コロナが落ち着きましたら集まれることを期待しています。

◆事務局長からの回答

今後も、コロナ対策を行ったうえで各種集会を開催していきたいと考えています。関東地区での集会開催のご要望も多く、本来、3年に1回は関東地区での総会・講演会を開催するようしており、次回はぜひ関東地区でと思っています。ご期待ください。

■田中博会員

総会議題について下記の通り、意思表示させていただきます。

1. 別紙の募金依頼について、その内容に当方は賛成いたしかねます。募金は理事会が承認されたとなっており、事業報告としては済んだ内容のようですが、賛成いたしかねます。
2. 2019 年度決算については、現金ベースの出納としては資料通りなのですが、別途頂いています池田先生の会員への寄付依頼の案内では日本の旅客船の出版費用が” 目標に達せず”” 取材費もまかなえていない” と連絡いただいていることに関し、会計報告書では、その辺の事情がわかる会計科目・金額が一切あらわれておりません。池田先生個人が交通費など立て替えられておられるのか？出版社との支払い契約がどうなっているのか？そのあたりが決算書に反映されていないと仮定すれば、決算はやり直しとなるはずですが？
3. 予算案において記念誌の郵送料については触れられておりますが、肝心の記念誌作成費用が予算に項目として含まれておりません。一方で募金では、理事会で記念誌発行事業は承認され、その費用に充当される募金を行うことも承認されているとあります。

つまり募金の用途が、根拠なく、予算書にもわからないようになっていたことは、理事会運営、予算案の策定と理事会の事前確認作業等に瑕疵があると思えてしまいます。さらに周年事業などのためにも積み立ててあるはずの繰越金をほとんど使い果たす形の予算案となっており、募金の用途目的が記念誌以外の用途でどうなるのか怪しくなってしまいます。記念誌予算はいくらかなのか？記念誌と客船Ⅲはどっぷり勘定で扱われるのか？内容に不信感を抱かざるを得ません。

4. 池田先生のメールにありました「客船 出版事業」が採算がとれておらず、経費も回収できていないということなのに、決算書および予算では、そのことが収支計算書には反映されていないようです。出版に関する計画の金銭的な側面は一般会員は知らされておらず、出版社との契約、取材内容やその費用がどうなっているのか、常識の範囲なら、細かいことは説明を求めないですむのですが、先生のメールにあるような状態になっているということなら、由々しき問題であり、事業の計画自体が甘かったことになってしまいますし、その事業を承認した理事の責任も当然生じています。

出版事業については理事会で承認されて行われ、現時点では目論見通り進展していない＝計画があまかった、のでしょうから、その金銭的な償いは、まずは、学会の運営に責任を持ち、事業案を提出して討議し、承認した理事会のメンバー（個人・法人を問わず）が行うべきです。具体的な刊行作業に関与していない一般会員に協力を求めるのは最後の手段でしょう。

募金のお願いは頂いていますが、理事メンバーの方が具体的にどう動かれるのか？承認した理事なら、法人会員かどうか別にして、もし赤字補てんが必要なら会員資格者として運営責任をとり赤字？補填に協力すべきだと思いますが。社会通念上も何かあったときの運営責任としての理事会・理事でもあるわけです。

5. 募金について、学会設立の趣旨に沿った学会活動（事業）に賛同できるものなら学会の財政基盤強化に協力したいと考えておりますが

(1) 10周年記念誌 の 印刷・製本・原稿料 広告収入 などの

概算予算はどうなっているのか、募金 300 万円の用途の第一候補として挙げられていますか？

郵送料は予算にあります、何千部も作成されるわけではないでしょうか？？？

もともと、非常時や周年事業に備え次年度繰越をおこなってきたわけですから 70 万円の繰越を食いつぶす予算を立ておいて、「お願い」はちょっと虫が良すぎる？と受け取られかねません。

本来なら財政悪化の責任の大半がある理事の方々が、自ら財政強化に動かれるべきで、そのあたりが見えてきません。

6. 名簿発行は十二分に注意してください。名簿は毎年発行（更改）しないと意味がありません。10 年に一回なら発行しても無意味です。そのあたり、理事会の方々はどういう意見を集約されてたのですか？真剣に議題を捉え討議された結論なのですか？イージーに”良いのでは？”とか”Ok”とか答えを出すと、あとから大変なことになると危惧します。

名簿の発行は不正利用だけでなく、プライバシーの観点から公開項目も限定したりする必要があります。事務局は、会員の入会・退会、住所変更、勤務先事業所変更などきちっとフォローできるのですか？きちっとできなくて中身が古いママとなるとかすれば、かえって逆効果です。事務局が継続してメンテできるというなら、それはそれで良いですが、それと、募金の第二目的の用途になるほどの金額がかかるのでしょうか？

私事ですが、別途会員数百名のある会に属しておりますが、5 年に一度、製本版の発行、毎年は変更分のみを会員に郵送 or メールなど。（製本版は 5 年間有効、有料で 1 冊 2500 円で、おおよそ 5 年間で 2-300 部の販売です。通常年は変更分のみ A4 で郵送 or メールということで、経理的な明瞭さ、多年度、製本代償却という制度をとっているため単年度会計ではブレが大きいため名簿の作成代と、販売代は会の通常会計とは別項目の会計として取り扱いをしています。（会計的には分けていますが、金銭的＜銀行預金＞には全体の会計の取り扱いに含まれています。全体の繰越金が多くあるので、会計的にはマイナス科目が出て可、全体では資金はショートしない。）

また、主に国交省ほか官庁、自治体、交通各社、重工、金融各社勤務、大学教員（各 OB 含む）などの同窓生の任意団体に属していますが、毎年、幹事会社は変わっていくのですが、名簿ならびに総会・集会などの諸連絡は出席者もしくは資料を入手したい人だけが、事務局に連絡し連絡をとった人のみが、その先の資料へのアプローチなどにおいて事務局の責任者の許可でもって、パスワードが都度付与されます。具体的には各資料の事前案内をメール。応答したものに対してのみ、資料をメール送信資料にはパスワード埋め込み。パスワードは、再度事務局から連絡（名簿やどうでもよいような諸資料であっても不正・不要な利用防ぐためですが、それぞれの立場が誤解されてはいけないため、守秘義務が前提です。似通った業界内で、自分と異なる範囲の仕事をしている人の話を聞き自分の仕事に役立てるのが目的の同窓会です。

仕事面での協力は OK だが安易な職位の利用はご法度。会員メンバーということを不用意に悪利用することは職場を失い人生を失うという前提です。）

いくつかの学校の同窓会の名簿についても、名簿発行費用は予め、毎年の同窓会の会計の、支出科目に計上されており、その費用は、毎年徴収する同窓会費に該当額が含まれた予算となっているのが普通です。つまり、今回の寄付の目的の項目に”名簿作成費用”が出てくる事自体、非常に不自然です。なにか、カネがかかる項目を無理やり担ぎ出した？という感が強いのですが？だいいち 300 万円の金額からして名簿作成費用がそんな大きなウェイトを占めるとは思われませんが。りっぱなお願い文書にしたら、名簿代は少し恥ずかしい題目だと思われませんか？”親睦のため”が第一目的

とは、同好会ではあるまいし。

皆さん船が好きな人の集まりなのですが、学会と同好会は一線を引いておく必要があります。人が知り合う場は学会として、総会やすでに（同好会的でもあるにせよ）乗船会があるわけで、女性会員などにも参加しやすいイベントやテーマを総会内容に設けることもひとつでしょう。

船の写真を撮って自慢するのは、個人の楽しみが主ですし、そういうイベントは総会の正式な講演に挙げない限り、費用は自己負担すべきものなのは論をまたないでしょう。酒を飲みながら船のことを語るのは楽しいことはわかりますが、飲み友達をつくるための同好会は、学会の本筋とは別のところであればよいわけです。

毎年の会員が納める会費は会の設立趣旨に沿った諸事業を学会が行うために、またそのための事務局運営費用のため納めているわけで、営利を主目的としていない学会である以上、多額の金額を募金で集めることが必要な事業は学会の事業としては不適切です。企業から、多方面の学者、学生、一般人を会員とし、官公庁とも連携をとる学会として、多額の金銭が必要となる事業は学会で行うこと自体避けるべきで、そういう事業を行いたい方がおられるなら別の団体や営利法人、非営利法人を設立して行うべきでしょう。

まして、どっかのファンドのマネじゃあるまいし、どっかのリピーター獲得会員制でもあるまいし、ゴールドだシルバーだと、勘違いされていませんか？一学会員として恥ずかしいです。なぜこんな発想が表に出てしまうのですか？学会の恥だと思います。企業からの研究費獲得と学会運営費を同じようにお考えなら考えを改められたほうが良いと思います。

学会はあくまでも会員全体で構成され、会長や理事は、会、会員全体のことを考えて行動していただかないと困ります。金を集めて安易に安っぽいタイトル文言で顕彰するというのは心底感心できません。学会の品位に疑問符が付きかねません！（本当に怒っています）お礼をされるなら芳名と金額の掲示で十分でしょう。

気のあった人や一部の交友関係の人が中心となるのは良いとして、学会の設立趣旨にある通り、クルーズやフェリーという旅客を乗せる乗り物を軸として、国民の生活レベルの向上、国家の国際性を高め、造船業界のレベルアップに寄与するの学会の活動目的のはずです。

唯我独尊の旧財閥系 2 隻がチョンボで少し反省したとは思いますが、船会社や旅行会社の美辞麗句とイメージ写真が誇大虚偽広告と指摘する人が増え、リピーターが増えないどころか、“静かに広まっていたクルーズ離れ”が DP で完全に定着してしまいました。今乗ってくれる人も、そう長続きしないでしょう。今後しばらくの短い旅程とコスパが他の旅行に圧倒的に負けてしまうからです。

クルーズのメリットばかりを強調し、良いことばかりをつなぎ合わせてせっかくストーリーを作っても、一般常識としての”だめ”と思われることが複数起きたり、乗船で体験されてしまうと、“裏切られた”とマイナスの逆効果となり、もとには戻らない失態となってしまったわけです。

同好の集まり、運営する業界関係も加わっての、そして一般人、一般乗客が主役でもある客船事業のレベル向上を図るには、乗客や一般人の批判や指摘を吸い上げて問題点を潰していく必要があるわけで（いわゆる大学などの研究員以外の一般人である乗客にも会員資格を与える意義）（クルーズ客として、クルーズ学（？）を構築されているのプロの学者はまだ出現していない）消費者＝クルーズやフェリーの場合は乗客が本来は改善の中心軸になることで、改善ができる業界であるにも拘らず業界の閉鎖性、産業政策の歴史変遷にしがみつかざるを得ない業界業界におんぶに抱っここの業界マ

スコミなどが（すべてそうだとは言いませんが）”素人がくちだすな”的な生半可な自称プロが多い業界はこのままだと衰退すると思います。

せっかく、”意見があれば”ということでしたので（各種の数字は数字として把握しているつもりですが）なぜ、クルーズファンが増えないのか？（皆さん答えはおわかりでしょうが、現状では打破できないとお考えなのも事実でしょう）

せっかく設立された学会が、何年も経っているのに同業者・同好者の年に数回の”生存確認”のための場の団体？？観光一つとっても、人数と消費額しか話題にできない貧しさ。金銭は重要ですが、金銭はついてまわるもので、観光の本質ではありません。そのあたりのこと、気づかないと、クルーズ業界、無くなりはしないでしょうが、魅力のない業界に落ちぶれてしまう可能性も現実問題として直面しているわけです。「量より質」への転換が始まっていることを、船好きの人は強くアピールしていくべきだと思います。

JTBさんのPR 地球の70%は海 といいながら、海の良さ、船の良さ、クルーズの良さを乗客に味わってもらおうことをしてこなかった船会社が、当面、苦勞しても仕方ないと思います。

逆に、今、問題点は何かを考えるチャンスでもあったわけで、各社、各船のこれからの新しい姿での復活・復興に期待するところも大きいのも事実です。

事務局の想定される議決と学会運営に関して、かなり異議を唱えることになりましたが、これも、今のままだと、せっかくの学会の将来、設立趣旨の目的を達成するにはなかなか、難しいと考えるから、あえて、イージーな運営を見直していただきたいとの考えで、頂いている資料から判断できる範囲でもって判断した結果でございます。（当方、一般的な経理知識は十分有しております。）

◆田中会員への事務局長の回答

いろいろご意見をいただきありがとうございます。固有名詞のある部分を一部削除して掲載させていただきます点、ご了承ください。

例年であれば、総会で、疑問点に直接お答えできる場所ですが、新型コロナの影響で開催がかなわず申し訳ありません。

まず、「日本の旅客船」の件ですが、学会としての自費出版であり、一般の販売ルートが使えない事業のため出版社は使っていません。これまで、私の関わった自費出版ではいずれも、費用回収のためには3～5年を要してきました。しかし、単年度決算の学会での出版では、年度内での費用回収は難しく、それが「取材費も賄えない」という表現になっています。

「日本の旅客船Ⅱ」の取材費については、今年度の私の分については学会には請求を保留しており、これは請求をしなくてもいいかと思っていましたが、こうした話を仲間内でしたところ、個人的に「寄付しますよ」といったお話もいただきました。そこで、創立10周年の機会に寄付を募り、それを基金としておけば、こうした数年にわたって回収するような企画もできるということで、理事会に諮り、募金をすることに決まりました。この募金で、「日本の旅客船Ⅲ」の発行にも目途がつき、各地の図書館にも寄贈ができることになりそうです。

10周年記念誌および「日本の旅客船Ⅲ」については、募金を原資として発行するため経常予算には含まれておりません。この予算については、募金の総額が確定してから、その枠の中で考えていきたいと考えています。

経常予算については、このままでいくと来年度には赤字になる予想です。監事からは3年ほど前から「会費の値上げをしたほうがよい」とのコメントをいただいておりますが、私の会員拡大でなんとか赤字を食い止めたいという考えから、値上げをせずに来ました。しかし、なんともできず、来年度から個人会費の1000円の値上げを先月の理事会でご承認いただきました。

これまで60万円ほどの繰り越しがありましたが、これは従来の総会でもご説明しているように、私が現役時代には研究室の秘書にも学会の一部を手伝ってもらっており、経常経費が小さく抑えられ、剰余金が蓄積されてきたためです。3年前に退職して、事務所を鶴橋に移したため、事務局員および私の交通費等も発生して、かつフルの人件費も必要となり、毎年20万円弱ずつ繰越金をとりくずす状況となっております。このままの事業を行っても、来年度からは毎年20万円程度の赤字が見込まれます。このため、断腸の思いですが会費の値上げをさせていただくことになりました。

今後も印刷費、郵送料等の経費削減に努めていきたいと思っています。

名簿については、おっしゃるように、経常費から支出して、定期的に発行するのが望ましいのですが、現在の人員では編集・発行が難しいため、10周年の機会に初めて発行することにしました。経常予算では難しいため、寄付金による基金に頼ることにしました。名簿発行に反対の方もおられるので、その方々の意向にも沿うように作成するためには、結構の手間がかかり、現在の事務局員の勤務時間での対応は難しく、苦慮している次第です。

寄付金に対して、ランク分けして公表することにご批判があるようですが、私の勤めていた大阪府大をはじめ、いくつかの大学、学会の記念募金の事例を調べたところ、寄付を頂いた方の額と名前を公表、または記念碑に刻印している事例が多くみられました。神社の灯籠の寄進等でも名前と金額が刻印されているものもあるようです。やはり多額の寄付を頂いた方に感謝を示すことは大事かと思った次第です。これは、すべて私の考え方ですので、ご批判があれば受けたいと思っております。

長年、客船に関する研究会活動を行い、さらに学会を作ったのは、世界的に成功しているクルーズやフェリーの情報を共有して、日本にも元気な客船産業をつくっていききたいという思いからです。決して、現状を否定しているわけではなく、現状+未来をみつめていききたいと思っております。

幸い、10周年を機会に募金をお願いしたところ、11月末時点で150万円をこえて、目標の1/2を達成できました。学会活動へのエールが聞こえてきており、ますます、気を引き締めて活動を続けていききたいと思っておりますので、引き続き、ご支援を賜れば幸いです。